

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Alcoholic beverage consumption and gastric cancer risk: a prospective population-based study in women. アルコール摂取と胃がんのリスク：女性地域住民の前向き追跡研究	
執筆者 Larsson SC, Giovannucci E, Wolk A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Int J Cancer. 2007 Jan 15;120(2):373-7.	
キーワード 胃がん、罹患、飲酒、女性、コホート研究	
要 旨 背景： 飲酒量と胃がんリスクに関しては、いまだ意見の分かれるところである。さらに、アルコールの種類が胃がんに及ぼす影響に関する報告はほとんどない。 目的： 本研究では、スウェーデン女性を対象に、総アルコール摂取量およびアルコール飲料の種類と胃がん発生との関連について、アルコール摂取ならびに他の食品摂取に関する反復評価を行い検討した。 方法： Swedish Mammography Cohort 研究の対象者である 1912-1948 年生まれのスウェーデン女性 61433 名を本研究の解析対象者とした。アルコール摂取ならびに他の食事摂取は、1987-1990 年のベースライン調査時と 1997 年時に量頻度法に基づいて評価された。胃がん発生についての評価は、スウェーデンがん登録のデータにより行われた。アルコール摂取ならびに他の食品摂取に関する反復評価を行い検討した。コックス比例ハザードモデルにより、総アルコール摂取量およびアルコール飲料の種類別の胃がん発生ハザード比 (HR) ならびに 95%信頼区間 (CI) を算出した。 結果： 2005 年 6 月までの追跡期間中 (966807 追跡人年)、160 の胃がん発生を認めた。分析の結果、非飲酒者の胃がん発生率を基準とした場合の週 40g 以上のアルコール摂取者の胃がん発生 HR は 1.33 (95%信頼区間: 0.79-2.25) であり、総アルコール摂取量と胃がん発生との有意な関連は認めなかった。一方、中～高アルコール度数のビール摂取は胃がん発生と統計学的に有意な関連を示しており、週 1 杯以上の中～高アルコール度数のビールを摂取する女性 (中央値は 2.5 杯/週) の胃がん発生率は非飲酒女性の 2.09 倍 (95%信頼区間: 1.11-3.93) であった。低アルコール度数のビール、ワイン、ウィスキーなどの強い酒の摂取は胃がんリスクとの関連を認めなかった。 結論： 本研究の結果から、ビールに含まれるエタノール以外の成分が胃がん発生リスクの増加に関与している可能性が示唆された。	